

■院内集会を開催しました

10月24日（木）、参議院議員会館B103会議室において第26回院内集会を開催しました。集会には約50名が参加しました。

今回の集会の柱は、チェルノブイリ原発事故による放射線障害に関して最近現地視察を行った平野達男参議院議員（前・復興大臣・東日本大震災総括担当、無所属）による講演と、平井吉夫理事による「福島原発事故収束をどうするか シニアの出番」と題する問題提起でした。



平野達男議員

平野議員は、日本が避難基準として定めている年間20mSvという値についてウクライナの医師や研究者がどのような見解を持っているのかが最大の関心事だったとした上で、この基準値に否定的な見解は予想に反してほとんどなかったと述べました。

また参加者との質疑応答の中で福島原発事故収束事業について触れ、「技術的な問題などについては世界の叡智を結集して共同して進める。国も入ってやる。そうした仕組みになっていると私は理解している。むしろ東電を切り離すという考え方が私にはよくわからない」と述べました。



平野議員の講演に続いて行動隊理事の平井吉夫氏がマイクを握り、行動隊の設立理念をあらためて確認しながら行動隊の今後の活動の方向性について「私案」を提示し、活発な議論を呼びかけました(2頁目を参照)

今回の院内集会には、阿部知子衆議院議員(日本未来の党)、牧山ひろえ参議院議員(民主党)、桜井宏衆議院議員(自民党)が出席して挨拶しました。



阿部知子議員



牧山ひろえ議員



桜井宏議員

■2013かわうち復興祭

10月20日（日）に開催された「2013かわうち復興祭」に行動隊の隊員、賛助会員15名が参加しました。

行動隊のブースでは行動隊員でプロカメラマンの宮城寛明氏が肖像写真撮影を、また画家の松原容子氏と似顔絵描きの杉山百合子氏が似顔絵描きを無料でを行い、好評でした。



参加者のお一人である奈須野博二さんが参加記を寄稿して下さいましたので以下ご紹介いたします。

* * *

●2013かわうち復興祭に参加して

SVCFの行事参加は、2012年11月の長野地域車座集會に山田理事長が長野市に来られた際に対話したのが初めてで、今回は2回目になります。

個人的には、これからのSVCFの参加を見据え、①会の雰囲気、運営方法、事務局の方々の考え方を知る、②実部隊のメンバーの方々の考えを知る、③SVCFに参加した場合、放射線の知識がない素人の私が現場で何ができるかを知りたいという気持ちから、自分で体験したく参加しました。

福島県内に入ると、中間地域と呼ばれる農地には荒廃の代名詞である「セイタカアワダチソウ」が茂り、3シーズン放置された農地は地形が判らない程の状態になっています。

川内村の中山間地域では、除染のため、急斜面の木が伐採され下草が刈り取られるなど、地滑りが心配な箇所も見受けられました。休耕田では田圃の畦(周辺)を含め、できるだけ草刈りをしたいものです。雑草は土壌の確保 地滑り対策の手段として大変有効です。しかし放置された雑草は気持ちを暗くするばかりです。

19日の懇親会ではメンバー各位の志の高さに感銘を受けました。復興祭当日は残念ながら午前中から雨。それでも復興祭には多勢来て来てくれました。

午後、塩谷さんの案内で、三浦さん、坂本さん、奈須野が川内村めぐりをしました。無人の住宅の庭先に設置された九州大学、京都大学の線量計。またコドモエナジー（川内村で震災後に新工場を建設）の福島プロジェクトで、茅葺屋根の古民家を再生し、村の復興のシンボル、コミュニティースペースとして活用するとのお話を聞きました。

コドモエナジーのブログで古民家の再生前の写真を見ました。今回、再生復元された茅葺屋根、天井内部を見て再生前と再生後を比べてみると、「よくぞ、ここまで」との思いがします。地域に根ざした企業のあり方の手本に思えます。

九州 京都 大阪 全国各地から支援が届いている事など現場に行かなければわからない支援もあります。いち早く「帰村宣言」を行った川内村は良い例かも知れません。マスコミから乗り遅れた町や村があると思います。今後、丁寧にフォローする事も必要です。



